

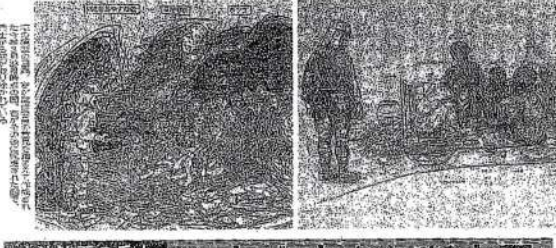
沈黙に向き合う

沖縄戦聞き取り47年

石原 昌家

大学へ出勤途中、嘉数中
学校前にさしかかったと
き、車内の携帯電話が鳴っ
た。校門前に車を止め、電
話を取ると、琉球新報社の
松永勝利記者だった。「先
生、ガマの監修の時、カメ
ラを持っていませんでした
か?」「たまたま、持って
いませんよ」「ガマ内部の
写真を撮りましたか?」「撮
りましたよ」「現像しまし
たか?」「まだ、フィルム
はだいぶ残っているの
で、現像してませんよ」「先生
、すぐに現像してください
か?」「じゃあ、いま写真
館を通り過ぎたところだ
から、そこへもっていきま
す」と答え、電話をきった。
松永記者の勢いに押され
、古書店「Uターン」で、古
書店「のん」の斜め向かいの写
真館で現像を依頼した。

新しい平和祈念資料館 ガマでの惨劇の模型 日本兵消える



ガマでの惨劇の模型 日本兵消える

1面トップ記事
平和祈念資料館の展示内容の変更に
ついて、9月10日、琉球新報朝刊の

一部内容を無断変更
「自決」強要の兵士 住
民に向いた銃

展示概要の監修報告とはま
ったく異なる展示内容の変
更を行政当局がひそかにす
めているという断片情報
を複数キャッチし、その裏
付けを得ようと奔走してい
たようだ。わたしは偶然撮
ったのだが、その裏付けの
具体的事実となるひとつの
決定的写真となった。

(69)

前回の連載写真は、その
時に現像したものだった。
偶然撮った写真を初顔合わ
せの松永記者に手渡したと
き、写真の出来栄えに満面
の笑みを浮かべていた。松
永記者がどうしてそんなに
喜んでいたのであるのか

平和祈念資料館展示問題②

「自決」強要の兵士除去 「沖縄戦の実相」根幹改ざん

は数日後のことであった。
わたしは県の展示作業の
進行状況に思わしくない
「空気」を感じていたが、
6月11日、作業内容が
具体的にほぼまったく耳に入
ってこなかった。
しかし、新聞社は3月の
年、県担当課に新資料館
の展示内容の早期公開を求
める要請を行い、記者会見
を開いたのだ。新聞社は展
示内容の変更を事務方が内
密に行っている内容につい
ての取材を重ねていたが、
紙面展開できるまでの情報
を得ることはできていなか
った。したがって、その要
請の結果に多大な期待を寄
せていた。だが、担当課は
要請文を受け取っただけ
で、展示内容に関する具体
的な質問に答えることはな
かったという。新聞社とし
ては期待外れだったが、そ
れをどっかかりに行動を起
こすことができた。

監修委が 疑問の声

記者の情報

以下は、後で知った新聞
社の動きである。その記者
会見を受け、直接担当課を
訪ね、展示内容文書の開示
を求めたのである。だが、
担当課はそれに応じること
はなかった。開示に応じな
い県の対応をふまえ、その
背後にある圧力に注目した
新聞社は、3月に担当職員
が新知事に展示内容を説明
したとき、その展示に難色
を呈したので、その見直し
を迫られ、困り果てていた
という情報も入手した。さ
らに、社は総力をあげた取
材活動で紙面化できる材料
を蓄積していった。
その頃には、監修委員の
わたしの耳にも展示内容を
説明した職員が新知事に
「反目的であってはならな
い」といわれたという情報

大々的報道の開始

99年8月11日の琉球新報
朝刊は、満を持して紙面化
し、県政をゆるがすほどの
大問題となった「新平和祈
念資料館の展示変更問題」
の第一報だった。
その1面見出しは「新し
い平和祈念資料館/ガマで
の惨劇の模型 日本兵消え
る」「自決強要の兵士 住
民に向いた銃」一部内容を
無断変更」である。(写真
参照)。そのリードは「来
年3月の開館にむけて作業
が進められている糸満市摩
文の新しい県平和祈念資
料館の展示部門について、
県は展示内容を決定する監
修委員の承諾を得るまで、
復元模型の一部の内容を
変更していたことが琉球新
報社の調べで10日まで明
らかになった。変更後の模
型では壕の中で住民にむけ
て銃を構えていた日本兵か
ら銃が取り払われ、負傷兵
に青酸カリ入りのコンパン
スミルクで自決を強要する
兵士がそっくり取り除かれ
ている。銃の日本兵は、そ
の後の監修委員の指摘で元
に戻す見通したが、変更内
容が沖縄戦の実相を伝える
根幹とも言える部分だけ
に、委員からは疑問の声が
上がった。模型を変更し
た理由について県平和推
進課では「権限を越えてい
るので答えられない」と明
言を避けている。また、月
に一度の頻度で開かれてい
た監修委員会や作業部会が
今年3月を最後に開かれて
おらず、委員らは早期開催
を求めている」という内容
である。
初めて見る図
記事の本文では、読者へ
展示の概要を伝えている。
「新資料館は「沖縄戦への
わたしが7月15日にガマ
の監修をしたとき、まさに
この手ぶらの日本兵を脱走
兵と思いついた図で、監
修委員のわたしのこの新聞
記事で初めて目にする改ざ
ん図であった。(つづく)
(次回は10月後半掲載予定)